

指針改定素案\_意見取りまとめ(大項目)

NO.	大項目	該当P (旧)	該当P (新)	意見内容	反映状況
1	「はじめに」の内容	巻頭	巻頭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・船橋の市民協働のこれまで、本指針策定の目的、改定のポイントを箇条書きで加えては</li> <li>・指針の概要の3つのポイントが大変効果のある示し方である</li> <li>・現行指針からどこをどう改善しようとしたのかが分かりづらい</li> <li>・市として市民協働に取り組む「目的」や市民協働における「市の役割や責任について、単なる理念にとどめるのではなく、改定される指針の中に明記すべきと考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻頭「はじめに」について、「本指針策定の背景」の見出しを追加し、現指針の運用上の課題を示す内容を追記。それを踏まえ、「本指針の目的」を明確にするとともに、指針のポイントについて要点を絞って整理し追記。</li> </ul>
2	用語定義	—	巻頭、目次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「市民協働」の定義は記載があるが、「市民参加」の定義はどこにあるのか</li> <li>・「市民参加」と「市民協働」はどう違うか1章を読んでも例示も含め結局理解が出来ない。</li> <li>・1章と2章の「協働」、1章の「市民参加」と2章の「市政への参画」をまとめて整理しては</li> <li>・「市政への参画」と「市民参加」は違うものなのか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「市政への参画」は市民参加の一形態として「市政への参加」に修正し、「市民参加」「協働」と併せて巻頭「はじめに」に用語解説を追加。</li> <li>・第1章は「市民参加と協働」の必要性、第2章は定義を含めた内容を説明し、「市政への参加」は市民参加の1つの形態であるため、市民参加の説明の後に記載箇所を修正。</li> <li>・第2章の見出しを「市民参加と協働」とし、定義を含めて説明する内容に修正。</li> </ul>
3	章立てについて	P1 ~9	P5 ~14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1章は必要か。第1章と第2章をまとめて、資料を倍にしてはどうか</li> <li>・第1章の なぜ「市民参加と協働」なの は何に対するなぜなのか</li> <li>・資料編を1章にしてはどうか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1章は なぜ今「市民参加と協働」がまちづくりに必要なの とし、「資料」に掲載していた社会的背景と共に記載。(歴史的背景は資料編に据え置き。)また、第2章に「市民参加」と「協働」の定義を含めた説明をまとめて記載する。</li> </ul>
4	課題への言及	—	巻頭、P6~7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化、共働き、介護などにより市民活動の担い手減少が危惧される。</li> <li>・ボランティアには資金が必要だが物価高騰等により余裕がない現状がある。高齢化や現役世代が参入できない本質的な課題に向き合うべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本指針の改定は、「まちづくりに関わる人の減少」といった本質的な課題に向き合うことを目的としているため、巻頭「はじめに」および第1章に社会背景の変化と課題についての内容を追記。</li> </ul>
5	協働の位置づけ	P3、5、9	P7、15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市役所にとって協働がまちづくりの「手段」であるとの記載を強調してしまうと、役所が省エネするために都合よく市民に力を借りたいとの思惑があるような誤解を与えてしまう懸念があるため、記載しない方が良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「市民一人ひとりが協働は～まちづくりの手段なのです。」の記載については、社会的背景からの連続性(まちづくりの持続性に係る内容)から、協働による課題解決や新たな価値の創出が、持続可能なまちづくり繋がるという主旨の文言に修正。</li> <li>※基本原則の「目的の共有」の説明箇所での記載は据え置き</li> </ul>
6	協働のはじまり	P1 ~2	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小さな助け合いが幸せか否かの価値観は人によって異なると感じる</li> <li>・「誰かの困りごと」を解決することが協働の原点だとすると、一度手助けしたら、継続してやらなければならない義務感にかられると心配する人もいるのではないかと。普段からのちょっとした行動が、少しずつ広がり、つながりができて、無理なくできるのが良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「幸せは小さな助け合いから～そんな姿を目指して取り組んでいきます。」について、多様な価値観を否定し兼ねないことや、「共助」の意味合いがやや強く表現されており、協働との誤認を避ける目的で全体を削除。</li> </ul>
7	市政への参画と協働	P8	P10、P14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PDCAのPLANの段階での市民参加が大事であると思うが、それを文書で書かないとこの項目の位置づけや目的が不明確である。</li> <li>・PDCAの表を敢えて入れる理由が不明、かつ何が伝えたいかが分かりづらい。</li> <li>・市側に協働に対する主体性があるのか疑問に感じることがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「市政への参画」は上記のとおり「市政への参加」に修正。</li> <li>・PDCAの「PLAN」の段階で市民の声を聞き、政策の実施にあたって適切に反映していくことで、市民⇄行政相互の信頼関係が生まれ、より良い協働の実現に繋がるという主旨の内容にページ全体を修正。</li> <li>・政策実施段階での協働類型は、「協働の類型」として説明箇所を協働のイメージを説明する箇所の後に修正</li> </ul>
8	協働の定義について	P5、P9	巻頭、P11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「まちづくり」の言葉が分野限定的に捉えられる懸念があるため、副題や協働の定義を見直しはどうか。</li> <li>・素案の「市民協働」の説明は、本来的な定義とは異なるものとするため、「市民協働」という言葉は使わないで欲しいと感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻頭「はじめに」に「まちづくり」の用語説明を追加。また、協働に繋がる取組を出来る限り広く捉えてもらうよう、協働の定義の「船橋をより魅力あるまちにするために」を削除。</li> <li>・本指針では「協働」について基本原則や期待される効果などで補足的に説明しているため、期待される効果を分かりやすくまとめ、掲載箇所を協働の定義の直後に修正。</li> </ul>

NO.	大項目	該当P (旧)	該当P (新)	意見内容	反映状況
9	推進の方向性と具体策	P11	P16	<p>&lt;「市民参加の促進」関係&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏のボランティア体験のようなマッチング事業は世代間交流の点でも大変有意義だが、その場限りのものとせず、継続的に参加に繋げる体制や仕組みを検討してほしい。</li> <li>・若者の参画を促進するために、参加しやすい具体的な手段を示してはどうか。</li> <li>・SNSの積極活用など市民活動の情報発信を強化すべき。</li> <li>・若い世代が参加したくなるような気軽な参加機会が市内各所にあると良い。</li> <li>・市民参加が進まない理由は余裕(お金・時間・体力)がないからだと思うが、余裕ができた際にまず身近な町会や自治体の情報に触れるため、情報の充実が鍵になる。</li> </ul> <p>&lt;「協働の創出」関係&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の公共施設やコミュニティは、高齢者は公民館、若者は学校というように世代間で分断しているように感じる。共通の目的を持つ人たちが世代を超えて集まり、雑談からプロジェクトが立ち上がるようなコミュニティの形成を期待する。</li> <li>・サポートセンターのコーディネーターやイベント等を通じた能動的な活動が必要。</li> <li>・世代や分野を超えた連携促進を図るために、行政による「コーディネート機能」の強化が必要であり、情報提供や人材配置など具体策を期待する。</li> <li>・コーディネート力の向上による機能強化について具体的に記述すべき。</li> <li>・行政としては団体の横の繋がりを実現できる場づくりが最も重要な役割。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組の推進の説明のページについて、「市が推進する方向性と具体策」として列挙</li> <li>・市民参加の促進の説明文中、「協働のあり方」を「参加したい人がスムーズに参加できる仕組み」に修正。</li> <li>・「市民参加の促進」のための具体策として以下3点を追記。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・気軽に手軽に参加できる機会の提供</li> <li>・参加者の年代やスキルに応じた柔軟な設定(開催日時の工夫やデジタル活用)</li> <li>・SNS等活用等による情報発信の強化 など</li> </ul> </li> <li>・「協働の創出」のための具体策として以下3点を追記。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な主体が出会う”場”づくりと交流の促進</li> <li>・協働のための情報の収集と発信</li> <li>・コーディネーターの育成 など</li> </ul> </li> </ul>
10	将来像への反映	P12 ~13	P17 ~18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業と連携し、協働に関する社内での周知・啓発と社外への公表・PRを行う仕組みを検討してはどうか。</li> <li>・多様性の社会において広く参加を促すためには、市や団体としても多様化しているものを受け入れる視野の広さや柔軟性が問われている。</li> <li>・横断的な課題解決に向け、ワンストップ対応可能な柔軟な行政運営を要望すると共に、行政の将来像として記載して欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各主体の将来像に以下追記。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 市民⇒全ての市民一人ひとりの前に「年齢、性別、世帯構成、文化的背景等を問わず」を追記</li> <li>2. 各団体⇒「市民の参加機会」の前に「多様な」を追加。</li> <li>3. 事業者⇒従業員に対して社会貢献活動に関する啓発を行う を追加</li> <li>4. 行政⇒</li> </ol> </li> <li>・各団体や企業と協働して、多様な主体がまちづくりに参加するための様々な機会を提供する</li> <li>・庁内の連携や主体間のコーディネートを通じて多様な主体による円滑な活動をサポートする</li> </ul>